

エジプト学研究第 18 号 2012 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.18, 2012

目次

〈序文〉	吉村作治	3
〈調査報告〉		
第 4 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報	近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合 望・西坂朗子・高橋寿光	5
エジプト ダハシュール北遺跡発掘調査報告—第 16 次・第 17 次発掘調査—	吉村作治・矢澤 健・近藤二郎・馬場匡浩・西本真一・柏木裕之・秋山淑子	21
2011 年太陽の船プロジェクト活動報告	黒河内宏昌・吉村作治	69
〈研究ノート〉		
両面加工石器製作の生産体制について		
—ヒエラコンポリス遺跡エリート墓地出土資料の分析から—	長屋憲慶	77
〈卒業論文概要〉		
岩窟墓の形態変化とアマルナ時代の影響	熊崎真司	85
〈活動報告〉		
2011 年度 早稲田大学エジプト学会活動報告		93
2011 年 エジプト調査概要		97
〈編集後記〉	近藤二郎	103

The Journal of Egyptian Studies Vol.18, 2012

CONTENTS

Preface	Sakuji YOSHIMURA	3
Field Reports		
Preliminary Report on the Fourth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian ExpeditionJiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Takao KIKUCHI, Hiroyuki KASHIWAGI, Nozomu KAWAI, Akiko NISHISAKA, and Kazumitsu TAKAHASHI		5
Preliminary Report on the Waseda University Excavations at Dahshur North: Sixteenth and Seventeenth SeasonsSakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Jiro KONDO, Masahiro BABA, Shinichi NISHIMOTO, Hiroyuki KASHIWAGI and Yoshiko AKIYAMA		21
Report of the Activity in 2011, Project of the Solar BoatHiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA		69
Articles		
Bifacial Flint Production Groups in the Predynastic Egypt: Analysis of finds from Elite Cemetery at Hierakonpolis	Kazuyoshi NAGAYA	77
Summary of the Recent Undergraduate Theses		85
Activities of the Society, 2011-12		93
Brief Reports of Fieldworks in Egypt, 2011		97
Editor's Postscript	Jiro KONDO	103

第4次ルクソール西岸 アル＝コーカ地区調査概報

近藤 二郎*¹・吉村 作治*²・菊地 敬夫*³
柏木 裕之*⁴・河合 望*⁵・西坂 朗子*⁶・高橋 寿光*⁷

Preliminary Report on the Fourth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition

Jiro KONDO*¹, Sakuji YOSHIMURA*², Takao KIKUCHI*³,
Hiroyuki KASHIWAGI*⁴, Nozomu KAWAI*⁵, Akiko NISHISAKA*⁶,
and Kazumitsu TAKAHASHI*⁷

Abstract

The Institute of Egyptology at Waseda University, Tokyo, has been working on the western Thebes since 1971. Since our first excavation at Malqata South, we have focused on the monuments from the reign of Amenhotep III such as Kom al-Samak, the palace of Malqata, the private tombs in the Theban necropolis, and the royal tomb of Amenhotep III in the Western Valley of the Kings. Following this direction of research, in 2007 the Supreme Council of Antiquities granted us the permission to work at al-Khokha area where we intend to clean, document, protect and conserve the tomb of Userhat (TT47), Overseer of King's Private Apartment under Amenhotep III, and its vicinity.

Although the tomb of Userhat (TT47) is one of the most important private tombs from the reign of Amenhotep III, comprehensive scientific research has not yet been conducted after the report of Howard Carter in 1903 due to the fact that its location had been missing. In the last three seasons, we uncovered the entrance of the tomb of Userhat (TT47), which has the lintel and doorjambs on both side. The lintel and doorjambs are carved with figures of the tomb owner, Userhat and text consisting of his epithets, titles, and offering text to Userhat.

In this season, we continued clearance at the tomb of Userhat (TT47) and its vicinity in order to obtain more information related to the tomb. The clearance revealed south-western corner of the forecourt. Also, after the clearance of one of the holes where the ceiling of the tomb had collapsed in the past, we identified the subterranean structure of the tomb. In the course of clearance, we found a number of different kinds of funerary objects from the debris. Notably, funerary cones which are inscribed with the name of Userhat and pottery shards which may have been related to the construction of the tomb were uncovered.

We also conducted the epigraphic documentation, architectural survey and conservation works at the TT174, Tomb -62-, TT264 and Tomb -330- in the vicinity.

* 1 早稲田大学文学学術院教授

* 2 早稲田大学名誉教授

* 3 サイバー大学世界遺産学部准教授

* 4 サイバー大学世界遺産学部教授

* 5 早稲田大学理工学術院総合研究所客員准教授

* 6 早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員

* 7 早稲田大学エジプト学研究所客員次席研究員

* 1 Professor, Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

* 2 Professor Emeritus, Waseda University

* 3 Associate Professor, Faculty of World Heritage, Cyber University

* 4 Professor, Faculty of World Heritage, Cyber University

* 5 Visiting Associate Professor, Research Institute for Science and Engineering, Waseda University

* 6 Invited Researcher, Institute of Egyptology, Waseda University

* 7 Visiting Junior Researcher, Institute of Egyptology, Waseda University

1. はじめに

早稲田大学古代エジプト調査隊は、1970年代にエジプト・アラブ共和国、ルクソール西岸のマルカタ南遺跡で発掘調査を開始し、1974年1月にコム・アル＝サマック（魚の丘）において、新王国第18王朝アメンヘテプ3世時代の彩色階段を発見した¹⁾。この発見を受けて、新王国第18王朝アメンヘテプ3世時代をその後の主な研究対象とし、アメンヘテプ3世の王宮であるマルカタ王宮址、アメンヘテプ3世時代のルクソール西岸岩窟墓や王家の谷・アメンヘテプ3世王墓の調査など、当該時代の研究を進めてきた²⁾。

こうした研究の一環として、早稲田大学古代エジプト調査隊は2007年度から新たにルクソール西岸、アル＝コーカ地区に位置するアメンヘテプ3世時代の岩窟墓、第47号墓を対象に調査を開始した（図1, 2）。調査の対象とした第47号墓は、アメンヘテプ3世のハーレムの長官などを務めたウセルハトという人物の墓で、アメンヘテプ3世時代の最も重要な墓のひとつである。第47号墓は同王治世後半に特有な、レリーフ装飾と列柱を備えた大型の岩窟墓であり、この墓の構造、装飾、被葬者の称号、家族関係などを明らかにするとともに、これらの資料をもとに研究を実施し、大型岩窟墓の特質と発展を解明することを調査の目的とした³⁾。第47号墓はH.A. ラインド（Rhind）やH. カーター（Carter）などの報告により19世紀からその

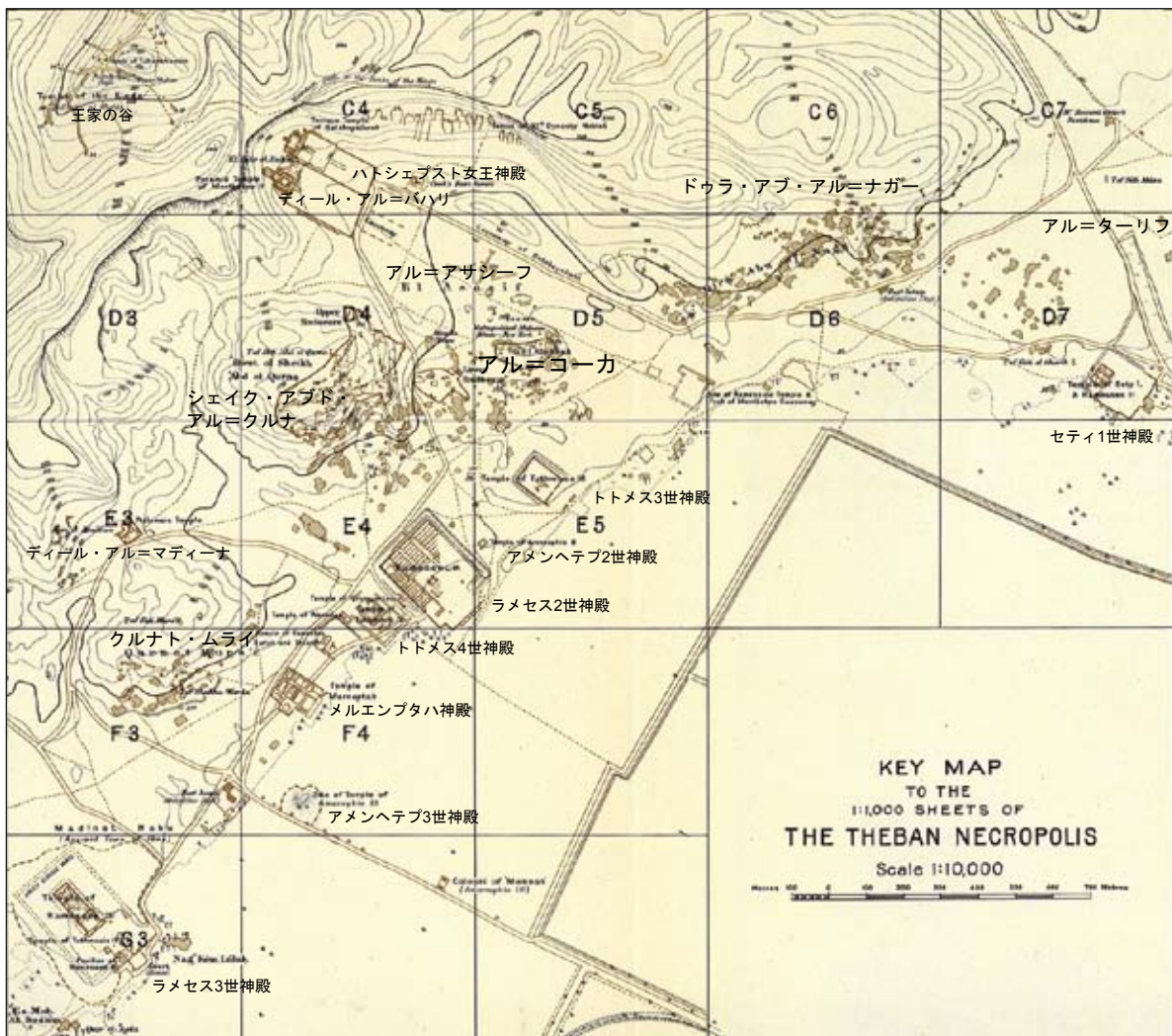


図1 ルクソール西岸地図（Engelbach 1924: pl.II を一部改変、スケール 1:20,000）

Fig.1 Map of the Theban Necropolis

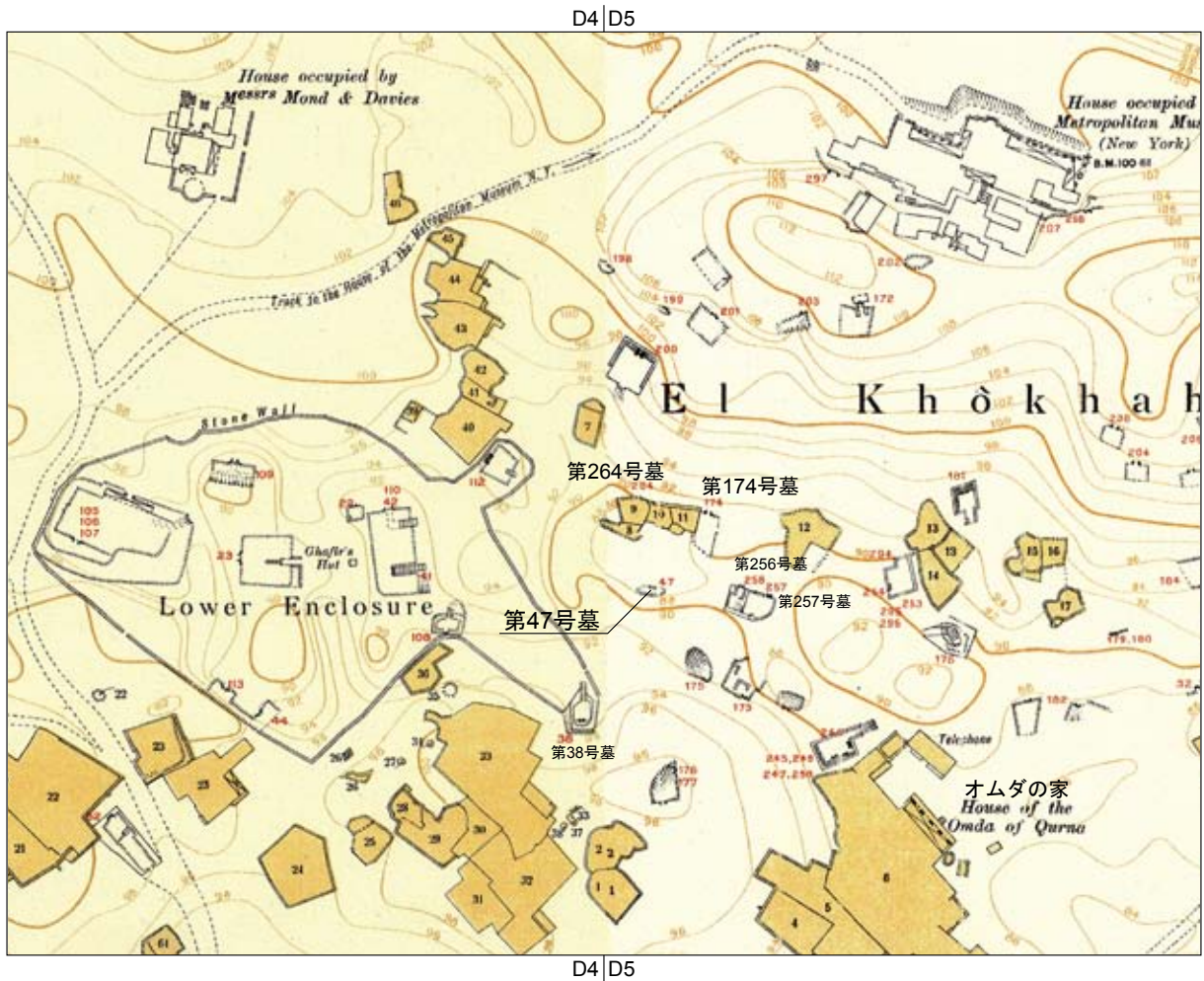


図2 アル=コーカ地区地図 (“Map of the Theban Necropolis” of Survey of Egypt from 1922 to 1924 を一部改変、スケール 1:2,000)
Fig.2 Map of al-Khokha area

存在が広く知られていたものの⁴⁾、総合的な調査は行われておらず、更に現在では墓は厚い堆積に覆われ、正確な位置すら不明となっていたことから、再調査が必要と考えられた。

第3次までの調査により、これまでカーターなどによって報告されていなかった第47号墓の入口と入口両脇の脇柱を新たに発見し、入口の詳細を明らかにすることができた。脇柱には、垂直方向に5行の碑文が刻まれており、下部には被葬者であるウセルハトが座った姿で描かれている。また脇柱の碑文から、これまで知られていたウセルハトの称号「王のハーレムの長官」に加え、「(王宮の) 印綬官の監督官」という別の称号が明らかになった。更に、第192号墓(ケルエフ墓)のように、ウセルハトの名前や図像の顔などが意図的に削られた痕跡も確認された⁵⁾。

第3次調査までの結果を受けて、2010年度の第4次調査では、今後の発掘、保存修復に向けて、第47号墓の内部の状況を確認することを調査目的に掲げた。また、第47号墓の北側に位置する第174号墓、第-62-号墓、第264号墓、第-330-号墓についても、記録作業や保存修復に向けた観察、記録作業を引き続き実施することとした(図3)⁶⁾。

本稿では、こうした経緯と調査目的のもと、ルクソール西岸アル=コーカ地区の第47号墓および周辺において2010年度に実施した調査について報告を行う⁷⁾。

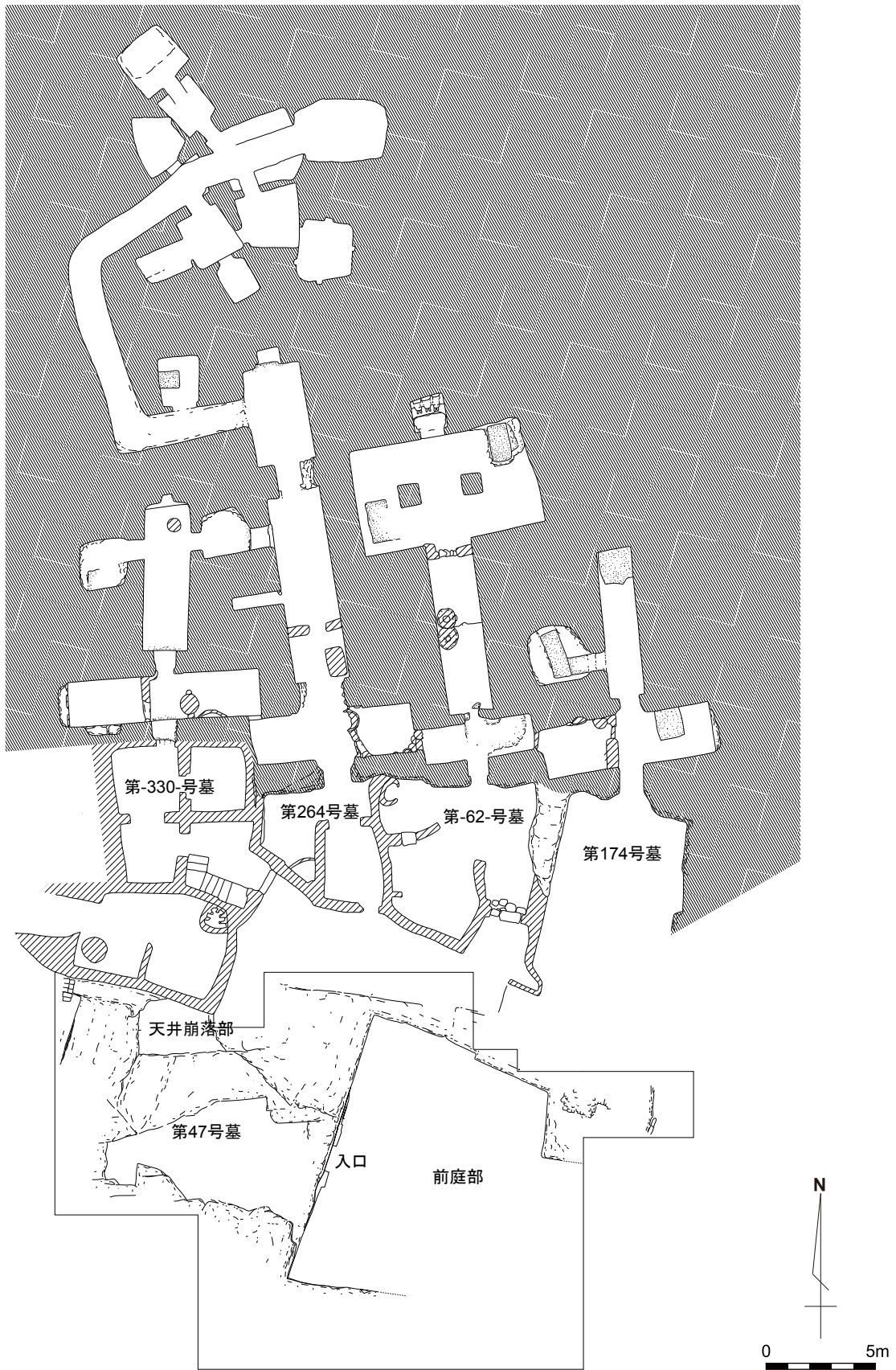


図3 第47号墓およびその周辺地図 (第4次調査終了時)

Fig.3 Map of TT47 and its vicinity

2. 第47号墓の調査

(1) 第47号墓の発掘調査

今期調査では、主に3カ所（第47号墓前庭部南西、前室天井上の南西、前室天井上の北西）で発掘調査を行った（図3, 写真1）。

第47号墓前庭部南西では、南西コーナーを発見することができた。これにより前庭部の規模が東西約9.1m、南北約12.5mであることが明らかとなった。この数値はハワード・カーターの1903年の報告にある「前庭部の規模は13m×9m」と概ね一致するものである（Carter 1903: 177-178）。

第47号墓の前室天井上の南西には、石灰岩チップ層の堆積がこれまでの調査で確認されていたが、この層の発掘調査を行ったところ、墓の造営に関連する遺物（バスケット片、オストラコン、顔料やプラスターを含む土器片など）が発見された。また、層を構成する石灰岩チップには、鑿痕が確認されたことから、この石灰岩チップ層は、墓などの造営のために石灰岩の岩盤を掘削したことによるものであると考えられる。堆積場所や堆積の方向から考えると、現在のところ、第47号墓造営の掘削による石灰岩チップの可能性が最も高いと考えられる。

第47号墓の前室天井上の北西の発掘調査では、前室天井の崩落個所の掘り下げを行い、内部の状況を確認した。前室には柱を繋ぐ「梁」が確認された。また、前室から奥室に至る通路も確認することができた。その他、天井の崩落の状況についても確認することができ、今後の発掘、保存修復に向けて内部の様子を把握することができた。



写真1 第47号墓およびその周辺、発掘調査後（北東より南西を見る、第47号墓入口前の日乾燥瓦壁は保護用）

Photo 1 TT47 and its vicinity after the fourth season of the excavation

(2) 出土遺物の概要

今次調査において第47号墓およびその周辺より取り上げた遺物は268点である。以下に主要な遺物について報告する。

①石灰岩製レリーフ片

第47号墓の被葬者ウセルハトのものと考えられるレリーフ片が出土した(図4.1)。背景は白色に塗られ、陰刻で2行の縦書きの銘文がある。文字は青、垂直銘文帯は赤で彩色されている。残存している銘文は...*wsir sn t3...h̄//i//imy-r//t...*であり、以下のように復元される。*[rdit i3w n] wsir sn t3 [nb nh]h̄ i[n] imy-r [ip]t-nswt [Wsr-h3t m3^c-hrw]*「王のハーレムの長官ウセルハト、声正しき者、によって、オシリス神を称えること。永遠の主に対して大地に口づけすること」。銘文は右向きであり、オシリス神への礼拝の文章が記されていることから⁸⁾、右側にオシリス神、左側にウセルハトの図像があったと考えられる。銘文帯の幅が4.3cmであることから、墓の壁面装飾というよりは、ステラなどの一部であった可能性が考えられる。

その他、横方向に銘文が陰刻された石灰岩製レリーフ片が出土している(図4.2)。*[s]β tw*の文字が残っている。

②砂岩製レリーフ片

横方向に銘文が陰刻された砂岩製レリーフ片が出土した(図4.3)。銘文の一部である*m3^t*が残っており、赤、青、黄色で彩色されている。様式的な特徴からラメセス朝に年代づけられる。

その他、*////wi3=f nb////*「...彼の船...主(または女主人)...」の縦書きの銘文の残る砂岩製レリーフ片などが出土している(図4.4)。このレリーフ片は、陰刻の文字に青の顔料が残っており、また削り取られた際の鑿痕が見られる。おそらく墓の脇柱などの一部であったと考えられる。

③オストラコン

第47号墓の前室天井上の石灰岩チップ層から出土した(図4.5)。黒色の顔料で顔が描かれており、長い髭があることから、神あるいは王を表現したものと考えられる。類例はディール・アル=マディーナから出土している(D'Abbadie 1959: pls.CXXV-2837, CXLII-2979, CXLIII-2971; Gasse 1986: pl.XXIII-3221; Page 1983: fig.23)。

④棺片

布を重ねた上にプラスターを施したカルトナージュ製の棺や木棺の断片が発見された。カルトナージュ製の棺片は、赤や青で彩色された首飾りの部分や(図4.6)、ヌウト女神の一部(図4.7)などがある。

⑤葬送コーン

今期調査では、11点の葬送コーンを発見した。第47号墓の被葬者ウセルハトの葬送コーンや(図4.8, 9; Davies and Macadam 1957: no.406)、その他、*P3-hq3-m-s3=sn*(図4.10; Davies and Macadam 1957: no.267)、*Hmy*(図4.11; Vivó and Costa 1998: 68)、*Mntw*(図4.12; Davies and Macadam 1957: no.362)、*Nn-β-w3-r=f*(図4.13; Davies and Macadam 1957: no.13)、*Mnw-nht*(図4.14; Davies and Macadam 1957: no.113)などの葬送コーンが発見されている。

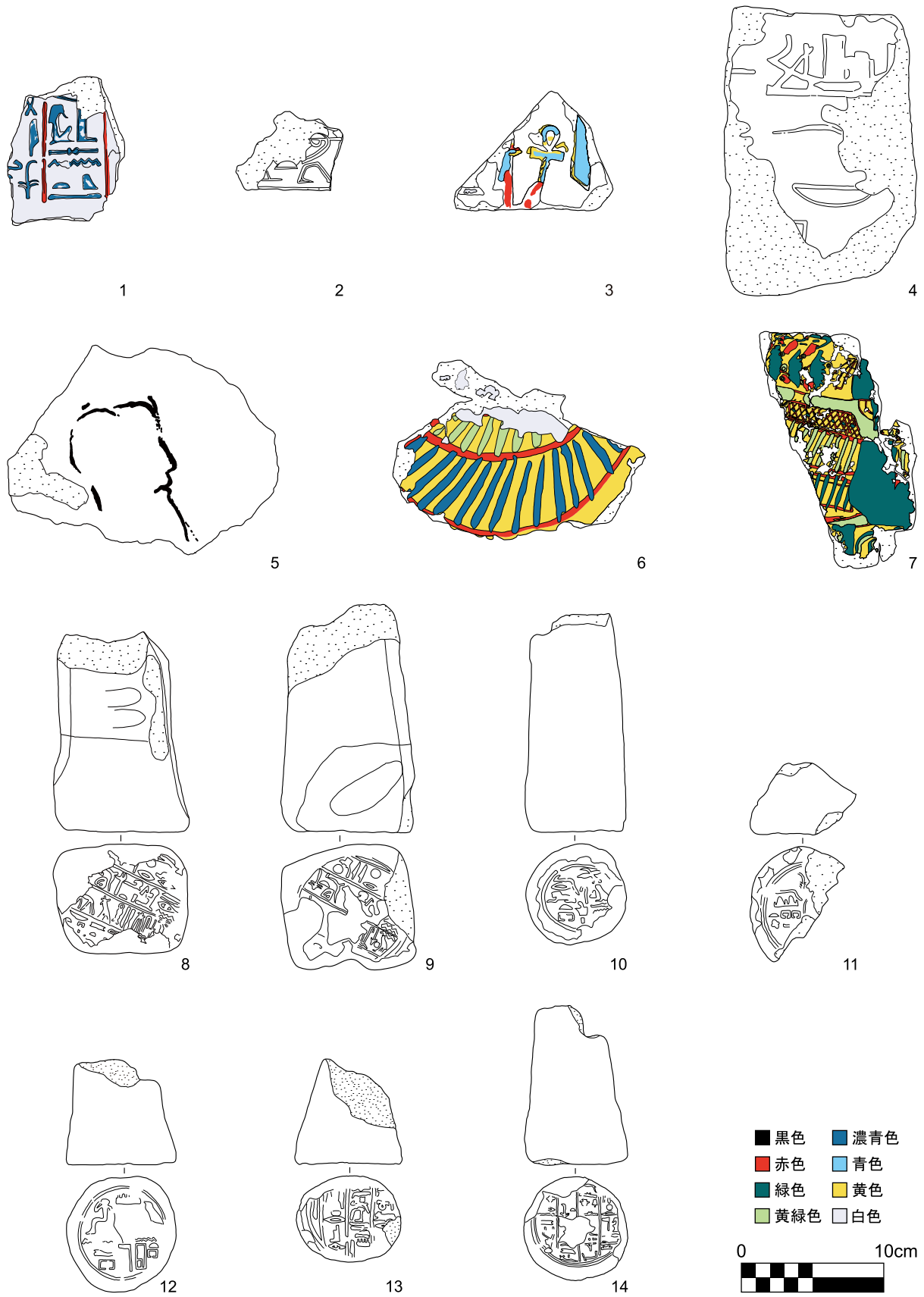


図4 第47号墓およびその周辺出土遺物 (1)
Fig.4 Major Finds from TT47 and its vicinity (1)

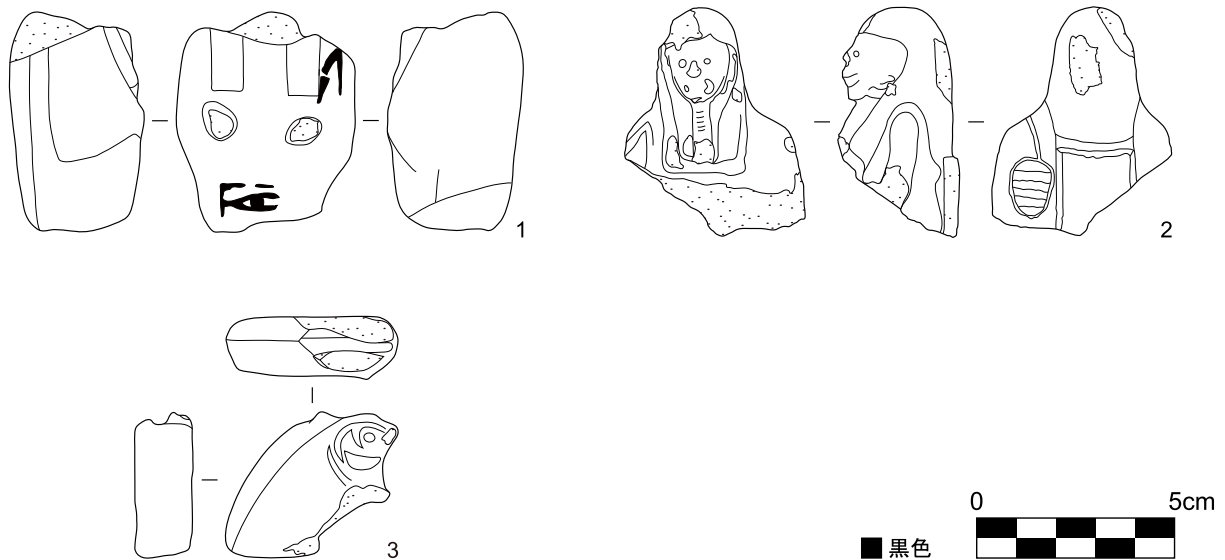


図5 第47号墓およびその周辺出土遺物(2)
Major Finds from TT47 and its vicinity (2)

⑥シャブティ

ファイアンス製および素焼きのシャブティが出土した。ファイアンス製シャブティには、黒色で *ir* の文字があり、これは *Wsir* 「オシリス神」の一部と考えられる(図5.1)。また、もうひとつのファイアンス製シャブティには、3つに分かれた鬘、編み髭、左肩につるされた籠などの特徴がある(図5.2)。これらの特徴から、このシャブティは末期王朝時代に年代づけられ、H.D. シュナイダー(Schneider)の分類ではXIA1にあると考えられる(Schneider 1977a: 225, 227-228)⁹⁾。特に左肩の籠は丸い形、水平の線があり、一本の紐でつるされている。シュナイダーはこのタイプの籠を第30王朝からプトレマイオス朝までに年代づけている(Schneider 1977a: 161)¹⁰⁾。

⑦ファイアンス製品

今期調査でも、ビーズ、壺、アミュレットなどのファイアンス製品が出土した。中でも特徴的なものは、ハヤブサあるいはホルス神の頭部を表したファイアンス製品であり(図5.3)、上部に紐穴の痕跡があることから、アミュレットとして使用された可能性が考えられる。

⑧土器¹¹⁾

今期調査では、主に第47号墓前室天井上の南西に堆積した石灰岩チップ層から新王国時代の土器が出土した(図6.1-10)。今期調査中にすべての整理作業、資料化は終了していないが、現段階における中間報告として、今期調査で資料化を行った土器の中で特徴的な土器について以下に述べてみたい。

皿形土器は内面、外面ともに“清め”を意味する白色のスリップで覆われており、また内部には火を焚いた痕跡と黒色の物質が付着していた(図6.3)。こうしたことからこの土器はおそらく火を使用する儀式に用いられたと考えられる。類例はマルカタ王宮(Hope 1989: fig.1.h)やアマルナ王宮(Rose 2007: 53-54, no.86)などに見られる。

Nile B2 胎土の青色彩文土器は、クリーム色の背景に、重花卉の文様と花卉と赤、黒の雄蕊の文様で装飾されている(図6.7)。同様の青色彩文土器は、マルカタ王宮からの出土がよく知られている(Hope 19989: fig.10.b)。その他、カルナクのアメンヘテプ4世に関連する建造物からも出土している(Hope 1997: fig.1.b)。

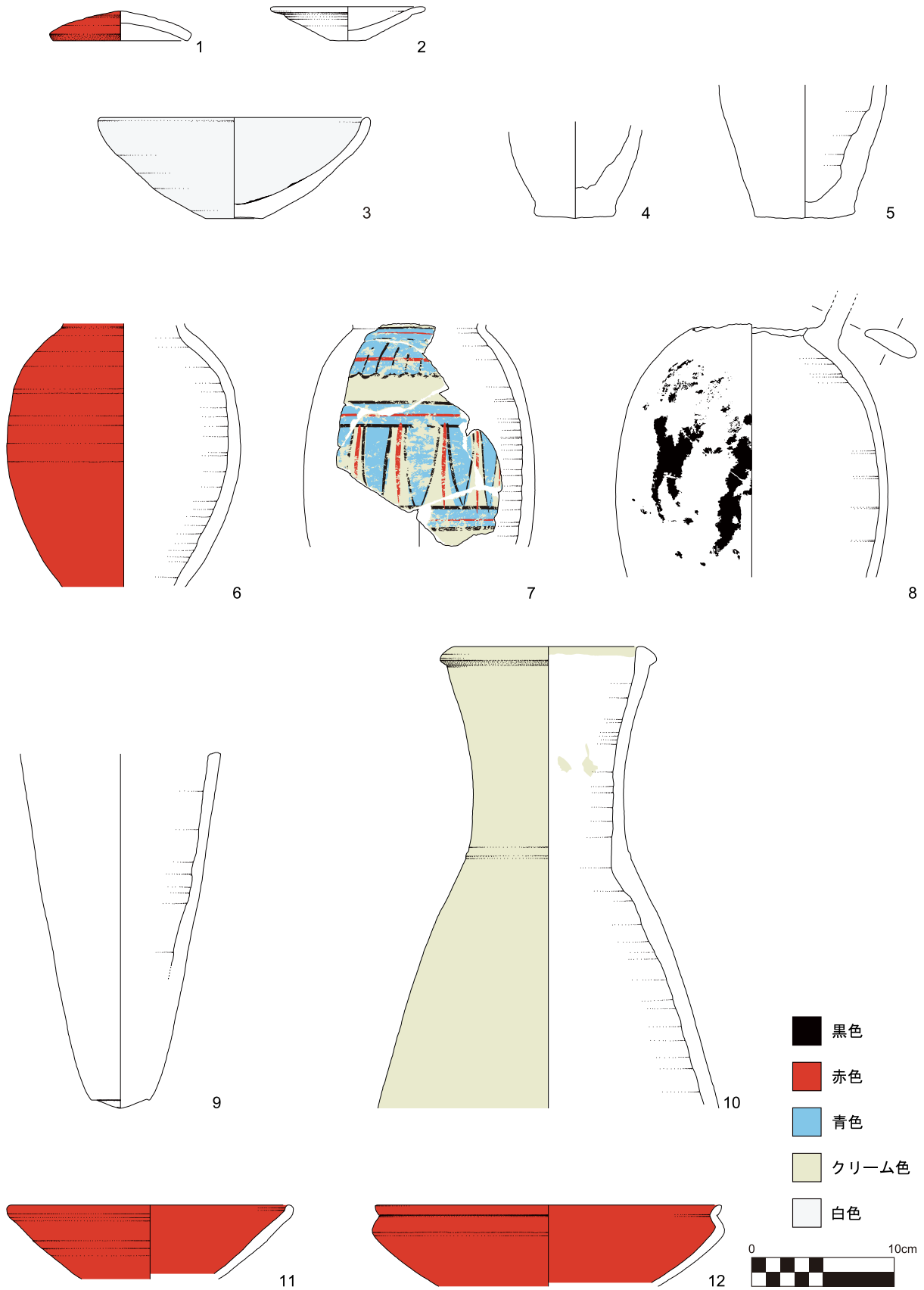


図6 第47号墓およびその周辺出土土器

Fig.6 Pottery from TT47 and its vicinity

アンフォラは、長頸のアンフォラに復元され（図 6.8）、類例はサッカラのパイとライア墓（Aston 2005: pls.126.120, 121, 127.122-124.）、ホルエムヘブ墓（Bourriau et al. 2005: figs.33-34）、マルカタ王宮（Hope 1989: pl.7.a）やアマルナ王宮（Rose 2007: nos.566, 685）などにある。頸の付け根の部分には、2次加工の痕跡が確認でき、また外面には黒色樹脂が付着していることから、飲料の貯蔵とは別の使用目的で再利用された可能性が考えられる。

石灰岩チップ層から出土した土器は、マルカタ王宮、アマルナ王宮に多くの類例を持つことから、アメンヘテプ3世からアクエンアテンの治世に年代づけられると考えられ、これは第47号墓の使用時期と一致している。また出土土器は、大きく儀式に使用された土器と墓の造営に使用された土器の2つのグループに分けることができる。儀式に使用された土器としては、蓋（図 6.1）、皿形土器（図 6.2）、皿形土器（図 6.3）、短頸壺型土器（図 6.6）、青色彩文土器（図 6.7）などが挙げられ、また墓の造営に使用された土器としては、プラスターを含む壺形土器（図 6.4, 5）、長頸アンフォラ（図 6.8）、アンフォラ（図 6.9）、大型壺形土器（図 6.10）などがある。こうした点から、現時点では、石灰岩チップ層から出土した土器は、第47号墓の造営の際の儀式および造営活動に使用された土器が、墓の掘削廃土とともに廃棄された可能性が想定される。

その他、今期調査では古王国時代の土器も2点出土した（図 6.11, 12）。内外面ともに赤色スリップで覆われ、磨かれている。その内の1点は、表面調整や器形の特徴から、古王国時代に典型的ないわゆる“メイドゥーム・ボール”と判断される（図 6.12）。類例は古王国時代後期に年代づけられるサッカラ（Rzeuska 2006: pls.83.382, 127.643, 128.648）、ヘラクレオポリス・マグナ（Bader 2009: figs.8.1, m, 9.g）などから出土している。類例の年代から、これらの土器は、コーカ地区の第47号墓周辺に位置する古王国時代後期の墓、イヒ墓（第186号墓）もしくはケンティ墓（第405号墓）に由来する可能性が高いと考えられる（Saleh 1977）。



写真2 第174号墓前室東側のシャフト

Photo 2 Shaft in the eastern part of the transverse hall of TT174

3. 第174号墓の調査

今期調査では、第174号墓の前室東側、奥室および奥室西側の部屋の発掘調査を実施した。奥室の奥壁前からは170cm×162cmの開口部が発見され、同じく前室東側の北壁に接し、140cm×110cmの開口部が発見された（写真2）。前室東側の開口部は、第18王朝中期の被葬者とその妻が供物を受け取るレリーフの下に位置しており、おそらくこの時代のシャフトの開口部と考えられる。



写真3 第-330-号墓前室脇柱
Photo 3 Door jamb of the transverse hall in -330-

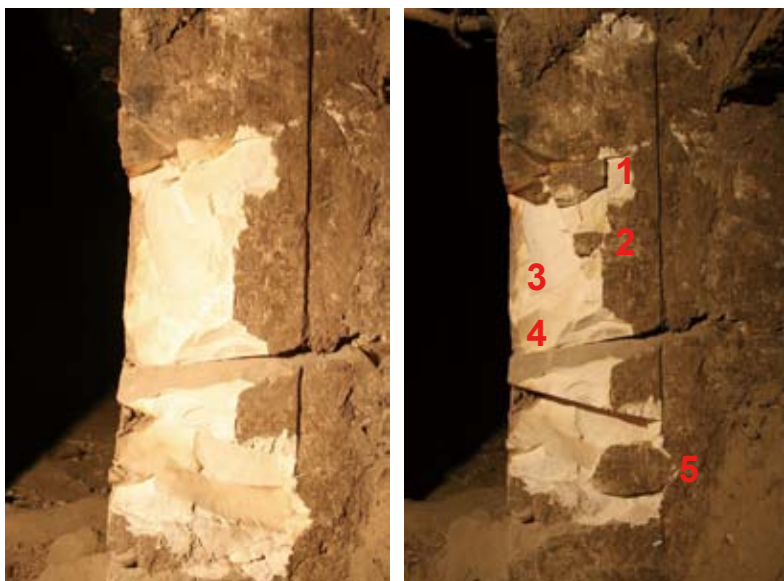


写真4 第-330-号墓前室脇柱接着前(右)と接着後(左)(大型断片3,4については、接着せず第-330-号墓内に収蔵)
Photo 4 Restoration of the eastern door jamb of -330-, before (right) and after (left)

4. 保存修復作業

(1) コンディション・サーベイ

今期調査では、第-62-号墓、第264号墓、第-330-号墓のコンディション・サーベイを継続した。観察によって確認された項目を「支持体（岩盤）の亀裂」「顔料の状況」「後世のプラスターとモルタル」「表面の汚れ」の4つに分類し、記録を行った。現場では、壁面写真の上に透明のフィルムシートを4枚かけ、項目ごとに壁面の状態を記録した。

コンディション・サーベイの結果、今後の保存修復処置としては、主に支持体（岩盤）亀裂の固定、欠損部の充填、顔料の固定、表面のクリーニングなどの課題が認識され、また保存修復に先立ち、顔料、プラスター、煤などの化学分析や壁画面に観察された微生物の生物学的調査の必要性も認識された。

(2) 第-330-号墓前室脇柱のレリーフ装飾の応急処置

コンディション・サーベイの結果、第-330-号墓前室の東側脇柱の応急処置が必要であることが認識され、今期調査中に実施した（写真3, 4）。亀裂などにより不安定な箇所については、Primal AC33を用いて強化処置を行い、またすでに剥離した小断片について Paraloid B48 の40%のアセトン溶液を用いて接着を行った。その他、大型の断片については、今後の保存修復に備え、整理して第-330-号墓内に収蔵した（写真4.3, 4.4）。

(3) 遺物の保存修復作業

出土した石灰岩レリーフ片、カルトナージュ片、木棺片などについて保存修復作業を実施した。遺物の汚れについては、溶剤を用いながら物理的に除去した。また顔料が不安定な箇所については、Paraloid B72を用いて顔料の固定を行い、支持体のプラスターなどは必要に応じて Primal E330S を用いて強化を行った。

(4) 環境計測

今期調査でも今後の保存修復計画を立案していく上で必要な温湿度データの収集を第174号墓、第-62-号墓にて継続した。これまでの計測結果から、第-62-号墓奥室の温湿度が第174号墓などと比較して安定しており、一時的な遺物の保管に適していることが判明した。

5. まとめ

2010年度の第4次調査では、今後の発掘、保存修復に向けて、第47号墓の内部の状況を確認することを目的として発掘調査を実施した。発掘調査の結果、前庭部南西では、南西コーナーを発見することができ、前庭部の規模が明らかとなった。また、前室天井上の北西の発掘調査では、天井崩落箇所から、内部の観察、測量を実施し、内部構造の一部を明らかにすることができた。今回の調査では確認できなかったが、カーターは前室南側の西壁にアメンヘテプ3世と王妃ティイのレリーフを報告しており（Carter 1903: 177-178, pl.II）、今後の調査でレリーフの原位置の同定が課題となる。その他、前室天井上の南西の石灰岩チップ層の発掘調査を行い、この層が第47号墓造営の掘削廃土に由来する可能性を示した。古代の建築活動の一端を示す資料として興味深いと考えられる。

また、これまでの調査同様に、第47号墓の北側に位置する第174号墓、第-62-号墓、第264号墓、第-330-号墓においても、碑文、遺構の記録作業、保存修復に向けた記録作業を実施した。

以上、第4次調査の成果と今後検討すべき課題を挙げた。来期以降も発掘調査および出土遺構、遺物の研究を継続し、第47号墓およびその周辺の墓について更に詳しく明らかにしていきたいと考えている。

謝辞

本調査は日本学術振興会科学研究費基盤研究(B)「古代エジプト新王国第18王朝時代後期の岩窟墓の調査研究」(研究代表者:近藤二郎)の助成を受けて行われた。

エジプト現地調査では、エジプト・アラブ共和国考古省大臣ザヒ・ハワース閣下(当時)、古代エジプト部部長サブリ・アブド・アル=アジーズ博士(当時)、外国調査隊管轄事務局長ムハンマド・イスマエル・カーリド博士、上エジプト総局長マンスール・ボライク氏、上エジプト・ルクソール考古局長ムハンマド・アセム・アブド・アル=サポール氏、カルナク神殿査察局長イブラヒム・ソリマン氏、ルクソール西岸クルナ査察局長ムスタファ・ワジーリー氏、副局長ヌール・アブド・アル=ガファル・ムハンマド氏、査察官ハサン・アリ・アハマド氏、外国調査隊管轄クルナ事務局ムハンマド・アリ氏、をはじめとする方々に多大なご協力を頂いた(肩書きは調査当時のもの)。

また、図版の作成には早稲田大学大学院文学研究科修士課程の北村 玲、熊崎真司、山田綾乃、および学生ボランティアの後藤里英、山川 彩、青笹基史、福田莉紗、中尾穂波の協力を得た。

ここに記して感謝の意を表する。

註

- 1) マルカタ南遺跡のコム・アル=サマック(魚の丘)における調査に関しては主に以下を参照(古代エジプト調査委員会編1983)。
- 2) マルカタ王宮址の調査は主に以下を参照(早稲田大学古代エジプト建築調査隊編1993)。ルクソール西岸岩窟墓の一連の調査は主に以下を参照(早稲田大学エジプト学研究所編2002, 2003, 2007)。また王家の谷・アメンヘテプ3世王墓における調査は主に以下を参照(Kondo 1992, 1995; 吉村 1993; Yoshimura and Kondo 1995; 吉村、近藤 1994, 2000; 河合他 2001; Yoshimura and Kondo (eds.) 2004; Yoshimura et al. 2005; 吉村他 2005)。
- 3) 第47号墓の研究史、研究上の問題点、アメンヘテプ3世時代の大型岩窟墓の問題点について詳しくは以下を参照(近藤 1994)。その他、アメンヘテプ3世時代の大型岩窟墓についてはD. アイクナー(Eigner)の論考を参照(Eigner 1983)。
- 4) これまでの報告としては、ラインドによるウセルハトの葬送コーンの報告(Rhind 1862: 137)、ハワード・カーターによる第47号墓の構造に関する記述やウセルハトの葬送コーン、ティイ王妃のレリーフの写真などの報告(Carter 1903: 177-178, pl.II)、A.E.P. ウェイゴール(Weigall)の記述(Weigall 1908: 125)などが挙げられる。またベルギーのブリュッセル王立美術史博物館には第47号墓由来のティイ王妃のレリーフが収蔵されている(van de Walle et al. 1980: 18-20, figs.3, 4)。
- 5) これまでの調査については以下を参照(近藤他 2009, 2010, 2011)。
- 6) 考古庁に登録されていない墓については、ルクソール西岸岩窟墓の網羅的な研究を行ったF. カンプ(Kampp)の付した墓番号、第-62-号墓や第-330-号墓などを使用する(Kampp 1996: 664-666, 760)。
- 7) 調査は2010年12月21日から2011年1月9日まで実施された。調査の参加者は以下の通りである。考古班:吉村作治、近藤二郎、菊地敬夫、河合 望、高橋寿光、北村 玲、熊崎真司、山田綾乃、建築班:柏木裕之、保存修復班:西坂朗子、渉外:吉村龍人、ムハンマド・アシュリー。
- 8) 銘文、図像の類例については以下を参照(Hadjash and Berlev 1982: 144-145, fig.86; James (ed.) 1970: pl.27; Bierbrier (ed.) 1982: pl.57)。
- 9) 類例については以下を参照(Schneider 1977a: 5.3.1.18, 5.3.1.32, 5.3.1.140)。
- 10) 類例については以下を参照(Schneider 1977a: 5.3.1.27)。
- 11) 土器の胎土に関しては10倍のルーペによる観察を行い、エジプトの胎土分類システムのウィーン・システムを参照し、記述を行った(Nordström and Bourriau 1993; Bourriau et al. 2000: 130-132)。その他、ウィーン・システムで未分類の胎土については、D.A. アストン(Aston)らの胎土分類を参照した(Aston 2004: 196)。胎土の色調に関しては、マンセルのカラーチャートを用いて記述を行った。土器の器形分類に関しては、最大径と高さの関係などの数値に基づいた器形分類(Aston and Aston 2001: 53-54)と形態に基づく器形分類(Holthoer 1977)を参考に、エジプトの土器研究で一般的に用いられている英語名称を日本語に訳し、名称を付した。

参考文献

Aston, B.G.

2005 “The Pottery”, in M.J. Raven, *The tomb of Pay and Raia at Saqqara*, London and Leiden.

Aston, D.A

2004 “Amphorae in New Kingdom Egypt”, *Ägypten und Levante XIV*, pp.175-214.

Aston, D.A. and Aston, B.G.

2001 “The Pottery”, in Martin, G.T., van Dijk, J., Raven, M., Aston, B.G., Aston, D.A., Strouhal, E. and Horáčková, L., *The Tombs of Three Memphite Officials, Ramose, Khay and Pabes*, London, pp. 50-61.

Bader, B.

2009 “The Late Old Kingdom in Herakleopolis Magna? An Interim Interpretation”, in Rzeuska, T.I. and Wodzinska, A. (eds.), *Studies on Old Kingdom Pottery*, Warsaw, pp.13-41.

Bierbrier, M.L. (ed.)

1982 *Hieroglyphic Texts From Egyptian Stelae etc.* Part 10, British Museum, London.

Bourriau, J., Nicholson, P.T and Rose, P.

2000 “Pottery”, in Nicholson, P.T. and Shaw, I. (eds.), *Ancient Egyptian Materials and Technology*, Cambridge, pp.121-147.

Bourriau, J., Aston, D., Raven, M.J. and Walsem, R.V.

2005 *The Memphite Tomb of Horemheb, Commander-in-chief of Tut'ankhamun III: The New Kingdom Pottery*, London.

Carter, H.

1903 “Report of work done in upper Egypt (1902-1903)”, *Annales du Service des Antiquités de l'Égypte* 4, pp.171-180.

Davies, N. de G. and Macadam, M.F.L.

1957 *A Corpus of Inscribed Egyptian Funerary Cones*, Oxford.

D'Abbadie, J.V.

1959 *Catalogue des Ostraca Figurés de dier el-Médineh Nos. 2734-3053*, IFAO, Cairo.

Eigner, D.

1983 “Das Thebanische Grab des Amenhotep, Wesir von Unterägypten: Die Architektur”, *Mitteilungen der Deutschen Archäologischen Instituts Abteilung Kairo* 39, pp39-50.

Engelbach, R.

1924 *A Supplement to the Topographical Catalogue of the Private Tombs of Thebes*, Cairo.

Gasse, A.

1986 *Catalogue des Ostraca Figurés de Deir el-Médineh Nos. 3100-3372*, IFAO, Cairo.

Hadjash, S. and Berlev, O.

1982 *The Egyptian Reliefs and Stelae, Pushkin Museum of Fine Arts*, Moscow.

Holthoer, R.

1977 *New Kingdom Pharaonic Sites: The Pottery, Scandinavian Joint Expeditions Vol.5:1*, Lund.

Hope, C.A.

1989 “The XVIII Dynasty Pottery from Malkata”, in Hope, C.A., *Pottery of the Egyptian New Kingdom: Three Studies*, Burwood, pp.3-44.

1997 “Karnak North: Painted Ceramics of the New Kingdom”, *Bulletin de Liaison du Groupe International d'Étude de la Céramique Égyptienne*, pp.29-33.

James, T.G.H. (ed.)

1970 *Hieroglyphic Texts From Egyptian Stelae etc.* Part 9, British Museum, London.

Kampp, F.

1996 *Die Thebanische Nekropole, Zum Wandel des Grabgedankens von der XVIII. bis zur XX. Dynastie*, Theben 13, 2 vols., Mainz am Rhein.

Kondo, J.

1992 “A Preliminary Report on the Re-clearance of the Tomb of Amenophis III”, in Reeves, C.N. (ed.), *After Tutankhamun: Research and Excavation in the Royal Necropolis at Thebes*, London and New York, pp.41-54.

1995 “The Re-clearance of Tombs WV 22 and WV A in the Western Valley of the Kings”, in Wilkinson, R.H. (ed.), *Valley of the Sun Kings: New Explorations in the tombs of Pharaohs*, Tucson, pp.25-33.

Page, A.

1983 *Ancient Egyptian Figured Ostraca*, Warminster.

Rhind, A.H.

1862 *Thebes: Its Tombs and Their Tenants, Ancient and Present: A Record of Excavations in the Necropolis*, London.

Rose, P.J.

2007 *The Eighteenth Dynasty Pottery Corpus from Amarna*, London.

Rzeuska, T.

2006 *Saqqara II, Pottery of the Late Old Kingdom, Funerary Pottery and Burial Customs*, Warsaw.

Saleh, M.

1977 *Three Old-kingdom tombs at Thebes: I, the tomb of Unas-Ankh no 413: II, the tomb of Khenty no. 405: III, the tomb of Ihy no. 186*, *Archaeologische Veröffentlichungen* 14, Mainz am Rhein.

Schneider, H.D.

1977a *Shabtis, An Introduction to the History of Ancient Egyptian Funerary Statuettes with a Catalogue of the Collection of Shabtis in the National Museum of Antiquities at Leiden*, Part I, Leiden.

1977b *Shabtis, An Introduction to the History of Ancient Egyptian Funerary Statuettes with a Catalogue of the Collection of Shabtis in the National Museum of Antiquities at Leiden*, Part III, Leiden.

van de Walle, B., Limme, L. and De Meulenaere, H.

1980 *La collection égyptienne, Les étapes marquantes de son développement*, Bruxelles.

Vivó, J. and Costa, S.

1998 “Funerary cones Unattested in the Corpus of Davies and Macadam (Annex I)”, *Bulletin de la Société d'Égyptologie de Genève* 22, pp.59-72.

Weigall, A.E.P.

1908 “Report on the Tombs of Shékh abd' el Gürneh and el Assasif”, *Annales du Service des Antiquités de l'Égypte* 9, pp.118-136.

Yoshimura, S. and Kondo, J.

1995 “Excavation at the tomb of Amenophis III”, *Egyptian Archaeology* 7, pp.17-18.

Yoshimura, S. and Kondo, J. (eds.)

2004 *Conservation of the Wall Paintings in the Royal Tomb of Amenophis III -First and Second Phases Report-*, Tokyo.

Yoshimura, S., Capriotti, G., Kawai, N. and Nishisaka, A.

2005 “A Preliminary Report on the Conservation Project of the Wall Paintings in the Royal Tomb of Amenophis III (KV 22) in the Western Valley of the Kings: 2001-2004 Seasons”, *MEMNONIA* XV, pp.203-212.

河合 望、吉村作治、近藤二郎、ジョルジョ・カプリオッティ

2001 「アメンヘテプ III 世王墓保存修復プロジェクト予備調査概報」、『エジプト学研究』第9号、早稲田大学エジプト学会、pp.39-45.

古代エジプト調査委員会編

1983 『マルカタ南〔I〕—魚の丘<考古編・建築編>—』、早稲田大学出版部。

近藤二郎

1994 「テーベ私人墓第47号」、『エジプト学研究』第2号、早稲田大学エジプト学会、pp.50-60.

近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、西坂朗子、高橋寿光

- 2009 「第1次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」『エジプト学研究』第15号、早稲田大学エジプト学会、pp.39-70.
2010 「第2次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」『エジプト学研究』第16号、早稲田大学エジプト学会、pp.47-77.
2011 「第3次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」『エジプト学研究』第17号、早稲田大学エジプト学会、pp.45-63.

吉村作治

- 1993 「早稲田大学古代エジプト調査隊調査報告(III)」、『オリエント』第36巻第1号、pp.159-177.

吉村作治、近藤二郎

- 1994 「アメンヘテプ3世王墓の調査について エジプト・ルクソール西岸、王家の谷西谷調査報告」、『人間科学研究』第7巻第1号、pp.187-199.
2000 「王家の谷・西谷調査報告－1992年8月～2000年1月－」、『エジプト学研究』第8号、pp.57-64.

吉村作治、近藤二郎、河合 望、西坂朗子、瀬戸邦弘、高橋寿光、中右恵理子

- 2005 「アメンヘテプ3世王墓保存修復作業概報：2001年3月～2004年3月」、『エジプト学研究』第13号、pp.5-21.
早稲田大学エジプト学研究所編

2002 『ルクソール西岸岩窟墓〔I〕－第241号墓と周辺遺構－』、早稲田大学エジプト学研究所.

2003 『ルクソール西岸岩窟墓〔II〕－第318号墓と隣接する墓－』、株式会社アケト.

2007 『ルクソール西岸岩窟墓〔III〕－第333号墓、A.21号墓、A.24号墓、W-4(Nr.-127-)号墓－』、株式会社アケト.

早稲田大学古代エジプト建築調査隊編

- 1993 『マルカタ王宮の研究－マルカタ王宮址発掘調査1985-1988』、中央公論美術出版.

エジプト学研究 第18号

2012年3月31日発行

発行所 / 早稲田大学エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.18

Published date: 31 March 2012

Published by The Egyptological Society, Waseda University

1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Institute of Egyptology, Waseda University